



# サフラン便り

第39号 21年6月15日発行

発行: 佐賀県薬剤師会女性薬部会

佐賀市本庄町大字本庄 1269-1

TEL: 0952-23-8931

FAX: 0952-23-8941

<http://www8.ocn.ne.jp/saffron/>

## ファルマルネッサンス女性フォーラムの参加報告

日時: 5月17日(日) 11:00 ~ 16:00

場所: 東京ベイコート倶楽部 出席者: 北島悦子、島田智子

(参加者) 都道府県薬剤師連盟 101名、日本病院薬剤師連盟 32名、日本女性薬剤師連盟 12名、

日本薬業政治連盟 10名、日本薬剤師連盟 5名、全国藤井もとゆき薬剤師後援会委員 22名

(挨拶) 日本薬剤師連盟 児玉 孝会長・日本薬剤師連盟 小田 利郎幹事長

(講演) 日本薬剤師会 石井甲一専務理事 「薬剤師を取り巻く環境の変化と将来」

医薬分業の推移と今後 医療法における薬剤師・薬局の位置づけ

医療保険制度の改革と調剤・診療報酬の改定 薬学教育6年制の実現と今後

病院薬剤師の配置問題と医療従事者の役割分担の見直し 新たな医薬品販売制度への対応

(スモールディスカッション)

15グループに分かれて各連盟のかかえる問題、各自の意見、藤井基之先生に希望すること等について話し合った  
(各グループの意見をまとめて発表) (3分×15グループ)

- ・前回の選挙における病院薬剤師の関心の低さ (病院内で選挙の話題をだしにくい雰囲気がある)
- ・アメリカの薬剤師のコミュニケーションの巧みさと実務の充実 (卒後直後から即戦力となる)
- ・研修会における意識の違い (日本の薬剤師は自己研鑽)
- ・アメリカの薬剤師と日本の医師、看護師は患者のためと回答)
- ・関心のない薬剤師に薬剤師の代表が国会にいないデメリットを具体的にアピールする
- ・実務実習にくる学生にも政治力の必要性を学習してもらう
- ・大学入学時、学生の保護者に対しても薬剤師の政治参加の重要性を伝える
- ・選挙名簿の作成に工夫が必要



ファルマルネッサンス女性フォーラムに参加して

島田智子

新橋からゆりかもめにゆられ、駅に降りたつたらすごい風。早めに着いていたので  
散策でもしようかと計画していましたが、会場へいくことで頭がいっぱいでした。

会場のエントランス前の施設の係員に案内され、施設内のスタッフの親切な対応で、他県からの先生がたと語らうこと  
もできて気持ちよく会場へ入ることができました。

児玉会長の挨拶に続き、石井専務のご講演を拝聴して、いかに政治力が不可欠なものかを再確認しました。

スモールグループディスカッションはとても良かったなと、振り返っています。私は開局ですが、病院薬剤師の生の意見や  
現場の状況を聞いたり、薬剤師として信念をもって動いた先輩薬剤師の経験を伺い、もっともっと薬剤師は社会に向け  
て、顔みせて活動しなければならないと思いました。また、米国の薬剤師と日本の薬剤師の研修する意味の捉えかた  
の違いを聴いて、わが身もそうだと反省しきりでした。

グループ発表でお聞きしたアイデアを、佐賀支部の実務実習担当の先生に伝えました。実習生にも政治力の重要  
性を早くから学習してもらうことは薬剤師の発展につながると期待します

美味しい昼食やティータイムでの御もてなしにすっかり気持ちがほぐれたせいか、他県の先生との語らいの中に情報交  
換ができて、充実した一日でした。昨年、佐賀での移動セミナー観光担当だった私の隣席は、今年開催されます岡山  
県の移動セミナー観光担当の先生でしたが、これは偶然でしょうか？

## <佐賀県女性薬剤師会の歴史>

## 会史投稿文より(その1)

元佐賀県薬剤師会副会長 宮地信子

昭和28年6月、当時の日本薬剤師協会会長で女性薬剤師会設立に絶大なご協力とご支援をいただいた故慶松勝左衛門博士が関東、関西女性薬剤師会設立の趣旨として「年々増加する女性薬剤師が団結し、相互の懇親と知識の交換を図り有事の時には女性としての政治的威力を発揮して欲しいと希望する。結婚して薬業に関係のない家庭人になれば、薬剤師会とは無縁になる。こういう女性薬剤師が年に一度、同舟同門の人々の会合に出席し、旧交を温め新しい知識の情報交換の場として一日を有意義に過ごすことも必要である。」と述べられているのを拝見し、昭和58年6月の石井道子氏の参議院選挙における日本女性薬剤師会の団結力を思い合わせ、慶松会長の先見の明にさすがと驚嘆の思いである。それと会長の女性薬剤師に対する暖かな理解と愛情が深く感じ取られる。このような慶松 日薬会長の後押しやまた時代の趨(はしり)もあって全国各県において女性薬剤師会設立が活発になった。(つづく)

## 佐賀市徐福長寿館主催「薬草を食する」のボランティア報告

日時:平成21年5月24日(日) 10時~12時まで

場所:徐福長寿館

ボランティア参加者:山口浩子、竹下喜久子、宇野由紀子、島田智子、宮地和子

内容 薬草に関する説明(食べられる薬草・危険な薬草)倉成先生が講和されました。

食材採取・春の薬草観察

調理実習及び試食

メニュー・薬草天ぷら(カキ、ドクダミ、ミツバ、ユキノシタ、ヨモギ、カキドウシ、シマカンギク、クサギ、ヘクソカズラ)

薬草サラダ(オランダガラシ、タンポポ、ノビル、ハコベ)

ご飯(サフランライス、ヨメナご飯)

デザート(ブルーベリー、ユスラウメ、クサイチゴの寒天寄せ)

薬草茶(ドクダミ、冬虫夏草、カキ葉、クワ茶、杜中茶、ゲンノショウコ茶など)



### 感想

\* ボランティアで行ったのですが、自分で揚げた天ぷらも他のメニューも全て頂きました。とても美味しかったです。こんな機会がなければ味わえない物ばかりでした。心地よい疲れの半日でした。(宇野由紀子)

\* 私が担当したグループの若い男性が、「揚げ物をしたことがないのでトライしたい」と、自らてんぷらに挑戦されました。彼は薬草に詳しくて、揚げ物はもう一歩というところでしたが、説明付きの試食にご年配の方々も喜ばれ、和気あいあいの中にも充実した一日でした。(島田智子)

\* 何かにつけ女性薬剤師部会を支援協力していただいている倉成、山口両先生からのお誘いで徐福長寿館主催の市民講座のお手伝いする機会をいただきました。薬草を使ったレシピで、木漏れ陽のそそぐ中でのアウトドア調理です。薬草に詳しい方や初めてのの方の参加でとても和やかな雰囲気の中、森林浴までできた1日でした。(宮地和子)

\* 「薬草を食する会」は野外での実習だったので、空模様を気にしながらスタートしました。参加者の皆さんは、自分で採集した薬草を手慣れた様子で手際よく天ぷらに、初めて食する薬草もあって揚げたての天ぷら、サフランライス、ゆすら梅の寒天等々皆さん大満足のようでした。来春はこのメニューを我が家の食卓にと思ったのは私だけではないはずです。終了間もなく雨がぽつりぽつり…お疲れ様でした。(竹下喜久子)

### 「ちょっと一言」

今朝、自転車のペダルを爽快(?)にこいで出勤していたら、前方に高齢の男性が一所懸命に歩かれる姿が目にとまりました。その手元に「おくすりノート」と薬袋が握り締められていました。不自由な足で病院に向かわれる様子に、何かしらメッセージが込められているように感じました。ルマルネッサンス女性フォーラムで「先生からお聞きした言葉が浮かんできました。薬剤師が研修会で学ぶのは何のため?自分の知識向上のため?欧米の薬剤師は「患者のため」と即答よ。

私は?……もっと高尚な言葉ができませんでした。(島田)